

地域医療連携支援について

「おきなわ津梁ネットワークに出来ること」

一般社団法人 沖縄県医師会
おきなわ津梁ネットワーク事務局

1

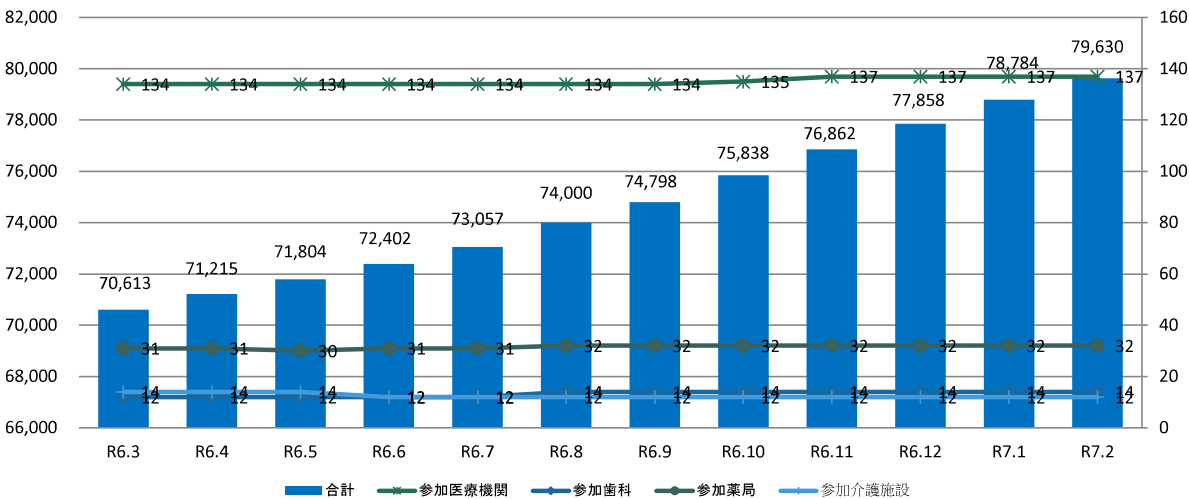
(津梁ネット) 患者 (県民) の参加・加入者数

集計方法：利用者カードの発行数で集計しています。

集計期間：2024/3/1 ~ 2025/2/28

R7.2月は**846名**の患者（県民）が参加しました。加入者数は**79,630名**です。
【ひと月に平均して約1,000名の患者（県民）が参加しています。（R6.3～R7.2）】

《 新規参加施設 》 介護老人保健施設 池田苑、 訪問看護ステーションさわふじ
訪問介護みずほ



2

29の開示施設で共有している医療情報（2025年度運用開始施設含む）

おきなわ津梁ネットワーク：救急告示病院・地域支援病院・療養病院等の診療情報開示状況（予定）																								2024/8/1					
No	病院名	種別	情報開示日	開示情報（標準）								開示情報（画像）				開示情報（拡張）										出力			
				患者基本情報	移動情報	アレルギー	病名	処方	注射	検査検査結果	生体検査結果	医用画像		医用画像	遠隔サマリ	看護サマリ	レポート	放射線	内視鏡	レポート	エコー	生理検査	レポート	病理	各種カルテ		紹介状	各種文書	診療情報
												CR	MRI																
1	ハートライフ病院	支	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	牧港中央病院	救	2015/5/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	中部徳州会病院	支	2020/1/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	浦添総合病院	支	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	与那原中央病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	豊見城中央病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	中頭病院	支	2015/5/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	北部地区医師会病院	支	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	沖縄協同病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10	南部徳州会病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	友愛医療センター	支	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12	琉球大学病院	特	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13	沖縄第一病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	沖縄赤十字病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
15	那覇市立病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
16	県立南部医療センター	支	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
17	国立病院機構 沖縄病院	救	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18	県立北部病院（2022年度運用開始）	支	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19	額井第一病院	療	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20	沖縄リハビリテーション病院	療	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21	海邦病院	療	2016/5/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
22	名嘉村クリニック（2023年度運用開始）	療	2018/4/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
23	同仁病院	療	2019/1/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
24	北中城若松病院	療	2018/3/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
25	小浜病院	療	同最取得日～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
26	翔南病院	療	2023/9/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
27	大浜第一病院（2024年度運用開始）	支	2024/9/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
28	大浜第二病院（2024年度運用開始）	療	2024/9/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
29	ながみ西病院（2024年度運用開始）	療	2023/12/1～	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●：情報開示中、▲：開示準備中、△：開示検討中、－：開示未定

●：情報開示中、▲：開示準備中、△：開示検討中、－：開示未定

3



① 紹介から受け入れ判断まで(津梁ネットワークの利活用)

患者紹介等の際に、専用ルーター接続より津梁ネットワークを開き、その患者様の診療情報を参照して、受け入れ判断となる情報を得ることができます。

※利用者番号等の連絡で診療情報参照可



【Point 1】一定の情報が整っているため、迅速に紹介患者様の状況を把握することが可能になります。

【Point 2】診療情報においてデータの(画像含む)に参照できるようになり、電話だけの情報伝達のリスクも軽減。

4



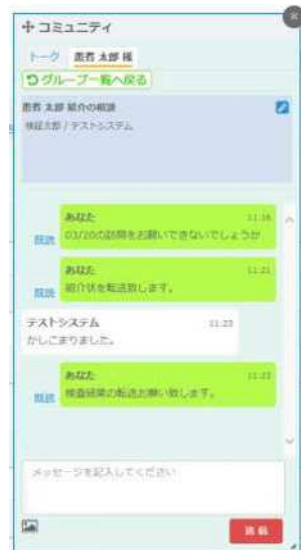
② 様々な取り組みが始まっています！【疾患別カンファ】

大腸癌相談室（カンサーボード）

- 【主 催】 浦添総合病院の佐村先生が中心となって運営
 【目 的】 治療方針の選択に難渋する大腸癌症例を抱える県内の医師を支援するシステムをおきなわ津梁ネットワーク内に設け、相談症例の検討・結果開示を通して県内医療機関の大腸癌診療レベル向上を図る。
 【参加施設：相談室コアメンバー（27）の施設及び、相談した医師の施設】
 ①浦添総合病院 ②琉球大学病院 ③那覇市立病院 ④沖縄協同病院
 ⑤友愛医療センター ⑥北部地区医師会病院 ⑦南部徳洲会病院
 ⑧中部徳洲会病院 ⑨沖縄病院 ⑩県立宮古病院 ⑪県立中部病院
 ⑫南部医療センター ⑬中頭病院

乳腺津梁ネットワーク

- 【主 催】 那覇西クリニックの玉城研太郎先生が主催
 【目 的】 ICTを用いた乳腺診療の均てん化
 【参加施設】 8施設が参加
 ①那覇西クリニック ②琉球大学病院 ③中頭病院
 ④浦添総合病院 ⑤友愛医療センター
 ⑥沖縄赤十字病院 ⑦沖縄協同病院 ⑧かりゆし病院

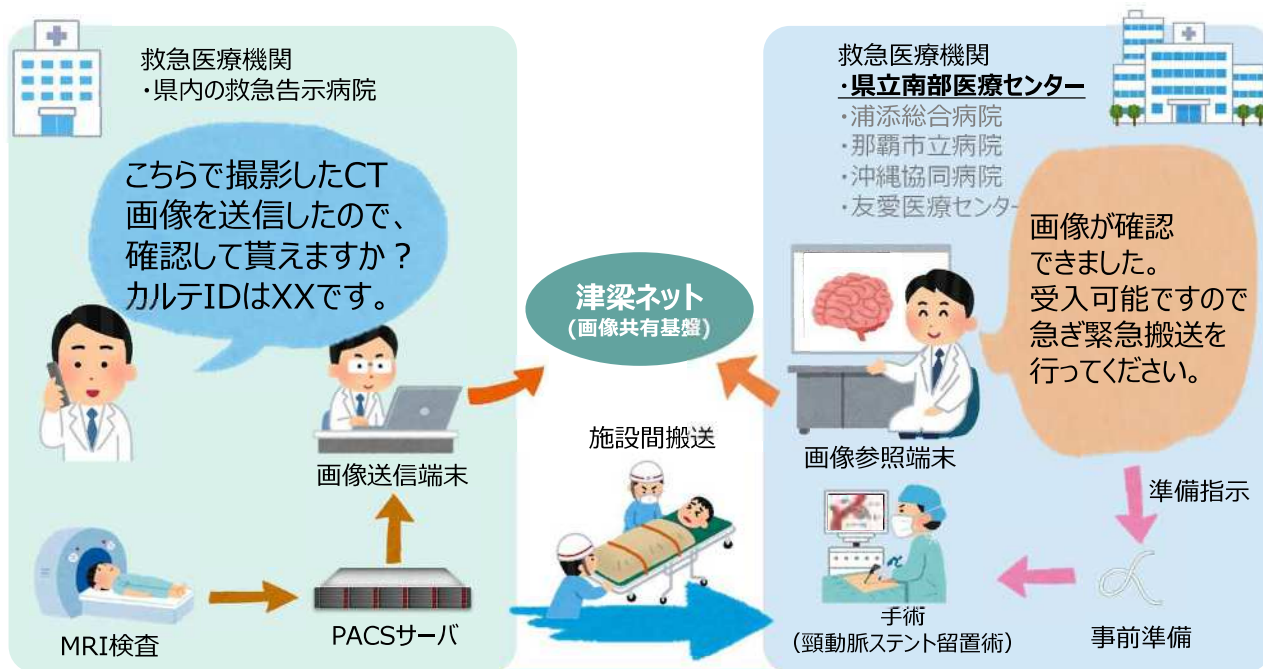


5



③ 様々な取り組みが始まっています！【救急搬送】

津梁ネットワークの救急画像システムを活用することで、緊急の患者様の画像をアップロードし、救急搬送先である受入機関にて速やかに確認を行う事が可能になり、患者様のより適切な治療に役立てることが可能となります。



6



④ 【活用事例】災害時におけるBCP対策

台風や地震などの災害による停電時であっても、おきなわ津梁ネットワークに加入済みの患者様であれば、出力している診療情報について、通常どおり参照可能です。

もし、病院が停電になったら



自然災害により院内の電子カルテが見えなくなった…



別場所にある**津梁ネットワーク**の患者データを参照できます。

(※ インターネット回線が使用でき、ノートPCなど津梁ネットに接続できる環境が整っていることが前提にはなります。)



おきなわ津梁ネットワークを、宜しくお願いします！

おきなわ津梁ネットワークのICT基盤を活用することで、急性期はもとより、回復期や維持期を含めた医療機関が、スムーズに連携する事が可能となります。病気の早期発見や医療者の業務効率化などにも繋げることが期待されます。

